
瀬戸際の3秒

ゆきのん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

瀬戸際の3秒

【Nコード】

N8799T

【作者名】

ゆきのん

【あらすじ】

殺し屋に追い詰められた被害者。

神に祈る間を与える、と3秒間の猶予をもらった被害者は……。

【注意】

非常にくだらない上に読みにくいです。

読んでもストレスを溜めない自信がある方のみどうぞ。

殺人者「さて、チェックメイトだ。言い残すことはあるかい？」

被害者「……」

殺人者「ふん、特にないかね。では3秒だけ待ってやろう。お祈りでもしておくといい」

被害者「……」

殺人者「ああ、キミは無神論者だったね、ならば覚悟を決めておけ、とても言い換えようか？どのみち、キミが死ぬことには変わらないからどちらでも構わないんだけどね。思えばここまで長かった……。こうしてキミを追いつめて憎悪に満ちた視線で睨まれながら銃口を突きつける瞬間を何度空想したか分からんよ。何度か夢にまで見たものだ。出会った時にはキミを殺すことになるとは思いもしなかったがね。数奇な運命もあつたものだ。ところでキミは僕と出会った時のことを覚えているかい？あれは忘れもしない、165日前の午前0時過ぎ。場末の酒場で僕達は顔を合わせたのだよ。その時の僕は会って間もないというのに意気投合して飲み明かしたね。何を話したかまでは覚えていないが、実に実りある時間だったよ。まあこうして銃を向けている今、その時間がもたらしたものは多大なる負債だったと言わざるを得ないがね。勘違いしないでほしいが、僕は決してキミを恨んでいるわけじゃない。これも仕事でね、因果なもんさ。商売柄、知人がターゲットになり得ないように人付き合いには慎重を期してきたつもりだったが、はっは、油断したものだね。ま、それでもキミはこの僕から逃れ続けてきたわけだから、僕のプライドをへし折るに十分なことをしてくれた。知人、いや友人と言

つても過言ではないが、そんなキミを殺すことにいささかの躊躇もないよ。キミは知らないだろうが、それでも僕は一度たりともミッションを完遂できなかったことはない。遡れば（中略）というわけさ。少し喋りすぎてしまったね。では、そろそろカウントダウンといこうかい」

被害者「なげえよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8799t/>

瀬戸際の3秒

2011年10月9日01時32分発行